

## 平成29年度第3回富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会 議事録

[ 日時 ] 平成30年3月16日(金) 13:30～15:30

[ 場所 ] 富里市役所本庁舎3階第3会議室

### ■出席者

石橋副市長

(座長) 富里市商工会：経済

(委員) 千葉県県土整備部都市整備局都市計画課長：都市計画

千葉工業大学副学長：都市計画

富里第一小学校区まちづくり協議会会長：防災

成田国際空港株式会社執行役員

共生・用地部門地域共生部長

ちばぎん総合研究所調査部長：経済

富里市民生委員児童委員協議会会長：福祉

富里市シルバークラブ連合会：福祉

成田赤十字病院副院長兼事業部長：医療

千葉交通株式会社専務取締役：交通

〃 自動車部長

富里市廃棄物減量等推進審議会会長

(事務局) 吉池都市計画課長、永田主査、戸村主査、斉藤副主査

大日本コンサルタント：古谷

(傍聴人) 1名

寒郡 茂樹

立木 督則

鎌田 元弘

川島 年雄

岩澤 弘

(代理・田所部長)

関 寛之

宮川 朱実

栗飯原 有禧

込山 克司

鶴澤 尚夫

(代理・河合)

大道 正義

### ■欠席者

千葉大学法政経学部：協働

千葉県印旛農業事務所改良普及課長：農業

富里市立浩養小学校校長：教育

関谷 昇

佐藤 美智子

渡邊 薫

### ■配布資料

- ・平成29年度第3回富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会 次第
- ・富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会委員名簿 第3回有識者懇談会
- ・地域別懇談会の開催概要と地域別構想(素案)

## 1 開会

## 2 富里市副市長あいさつ

## 3 座長挨拶

## 4 議題

### (1) 地域別懇談会の開催概要と地域別構想（素案）について

- ・【地域別懇談会の開催概要について】説明（1～2頁）

寒郡座長：

- ・北部、中部、南部それぞれでご意見を伺いたい。大道委員、栗飯原委員が北部、川島委員は中部、南部については宮川委員と、後ほどそれぞれの地域のコメントをテーマにしながらかディスカッションしたいと考えている。まず全体的な話として、今回のまとめについて鎌田委員からご意見をいただければと思う。

鎌田委員：

- ・全体構想ではすでに出てきているが、その地区に居住している人でないとなかなか状況がわからない。地区が置かれた立場で言うと、富里市の強みは地区間の連携が非常に大事なことだ。地区内だけの課題や資源があるが、例えば南部や北部に住む人が中部を見たときにどういう地区であってほしいのか。逆に南部の農村部をどう位置付けるのか。地区単位だけでなく常に地区間の繋がり、また交流拠点などは所々に記述されているが、そういうものを使ってどうしていくか。
- ・SWOT分析という非常に面白い分析をしているが、本来の分析は内部の強み・弱みというときに近接市との関係の強み・弱みという話もある。広域を見て各地区がどのような戦略を取るか、見据えておいたほうが良いと思う。各地区の居住者に話を伺うやり方は、内部の話は出てきやすいが他地区や他市との競合・連携という部分で、全体構想で触れているからよいとなりがちであり、その部分を作りこんでおかないと最後の部分で非常に小さい範囲で収縮してしまい、マスタープランの原点が損なわれる気がする。この点を頭の片隅に置いておいたほうが良いという思いがある。

寒郡座長：

- ・鎌田委員よりアドバイスをいただいたが、このまま進めてしまってよいか。

事務局：

- ・ごもっともなご意見だと思う。4月には地元の方の意見を伺う機会があるため、地域別構想は必要に応じて修正したい。

寒郡座長：

- ・個別テーマに移る前に、全体部分のご意見はあるか。

大道委員：

- ・1頁右下の【H27 年齢 3 区分別の人口割合】グラフだが、緑の年齢区分が『15-16 歳』となっている。正しい年齢区分が知りたい。

事務局：

- ・正しくは『15-64 歳』となる。大変申し訳ない。

寒郡座長：

- ・北部地域の地域別構想（素案）について説明をお願いし、それに対して大道委員と栗飯原委員よりご意見をいただきながらディスカッションしていきたい。
- ・【地域別構想（素案）について】北部地域 説明（3～4頁）

栗飯原委員：

- ・素案を見ると大体我々が望んだことが記載されており、これをまとめた方に敬意を表したい。
- ・私が住んでいる日吉台について、概要をお話したい。  
デベロッパーが開拓し住民が入居し始めたのは40年ほど前になる。家屋について、40年前はある一部の箇所だけだったが、最終的には約20年前に地域が満杯になった。家屋は当然のことながら老朽化するため、必要に応じて建て替えやリフォームしている方もいらっしゃるが、大多数はそのまま住んでいる状況だ。私の住む家は築36年で木造モルタル造だがそれほど傷んでいない。建屋はもつが、中に住む人たちの高齢化がかなり進んでいる。現在の日吉台の住人は8700人ほどだと思うが、各丁目で65歳以上の方の割合は30%以上で、私の住む3丁目でも37%を占めている。外で挨拶すれば3人に1人が65歳以上ということになる。さらに心配なのは、大体は男性が先に亡くなることから高齢女性の一人暮らしが多くなっていることで、3丁目だけで見れば一人暮らしは100人を超えているが、この数字は若者を含んでおり実際にはそれほどいない。また3丁目の世帯数620～630世帯のうち200世帯が二人暮らしになる。私の住むブロックは20件あるが、そのうち2件は売りに出され、もう2件は40～50代の方が住んでいる。残りは高齢者で、マスタープランが目指す20年後にはいないかもしれないという状況だ。

日吉台は交通の便が良い。京成成田・JR成田の両駅に近く、バスも早朝から夜遅くまで運行しているため、都内で仕事をしていても通勤できる。また公共施設についてはコミュニティセンター内に富里市の支所が置かれ、消防署、日吉台交番、小学校・中学校と、しっかりした施設が揃っている感じがする。インフラも電気・水道・ガス

と完全に通り、かつ、生ゴミは真空輸送システムにより終日処理されており、古くはなったが大変きれいなまちだと思っている。こういう点から見れば都会に住んでいるという感じがあり素晴らしいまちという気もするが、住民の高齢化をどうするかが大きな問題だ。

- ・高齢者が自動車運転免許を返納すると、外出時は徒歩か自転車に頼ることになる。都市計画道路の成田七栄線は歩道付きで整備予定となっており、完成後はジョイフル本田やベイシアまで徒歩もしくは自転車で行けるようになる。現状は危険で行ける状況にはなく、交通事故による死亡者が出たことがある。4頁『交通施設』で触れられており、大変助かるという思いだ。
- ・インフラで気になる点として、40年経過しているため生活道路があちこち傷んでおり、上下水道の水道管も10箇所ほど修理している状況だ。これから富里市へ転入してくる人のことを考えるとインフラや道路整備は必要であるため、維持管理をしっかり行なってほしい。

大道委員：

- ・昭和58年から居住している。当時私が自分で確実に確認しなければならないと思ったことは地盤で、庭の植木を植え込む際に1mくらいの土を入れ替えることになった。その時に業者から「日吉台地区は丘を削ったところであるため、元々地盤が固い。住宅を買ってよかった」と言われた。埋め立てた場所を買った人たちはそこが埋め立て地だと聞いておらず、大雨で崩れたりしたとのことだ。地震があったときも壁が崩れた、門のブロックが倒れたという被害を聞いている。日吉台に限らず記載はあるが、これから起こりうる自然災害についての検討も加えていただきたい。
- ・たくさんの人に富里市へ来ていただくひとつの目玉は、「小さい子どもを持つ家庭が住みやすいかどうか」になる。銚子市に住む知人によると、銚子市から神栖市へ移住した子持ち家庭は100世帯以上あったそうで、移住の理由は行政が小さい子どもを大事にする施策を設けているからとのことだ。日吉台に住んでいて常々思うのは、幼稚園・保育園が一緒になった幼保一体型になり、そのことに関して具体的にどのような解決策を考えるのか。北部地域は幼稚園・保育園が充実しているとの記述があるが、現実に私が近所の方の子育てを経験したなかで、小さい子どもを短い時間で送り迎えできる状況は長い間なかったと思う。成田市から通園バスに乗って通っている方もたくさんいるため、幼保に関しての検討を文書化していただきたい。北部だけではなく富里市全体として「若者に来てもらえる」というひとつの担保にもなると思う。
- ・地域間交流に関して、人が集まるところについての検討はかなり細かく行われているが、駐車場が使えないというケースで終わっている。京成成田駅周辺で高層駐車場を整備しているように、北部地域に限らず、人が集まる場所に駐車場を立体化する考え方を検討していただきたい。日吉台に100台近く止められる駐車場があったが、できすぐに更地になり使えなくなってしまった。私の家に車で来る人がいても車が止められない状況であり、近隣住民の考えもあるだろうが、駐車場高層化の検討という提

案をさせていただく。

- ・富里市の水道の配水をしている場所から比べると、日吉台は高さが一番低い。行政としても、以前から朝など水を一番使う時間の水圧調整に随分苦勞してきた。日吉台はいつでも水道が使えるが、中部・南部の水道を確保するためには水圧を上げないと水が止まってしまうと聞いたことがある。水圧に関しても検討されていると思うが、一番低い場所に水がたくさん通りいつでも使えるという背景が北部地域にあるため困ることはないが、中部・南部ではどうなのか。この点について検討いただきたい。
- ・学校やコミュニティセンターの利用を提案されているが、9頁【重点施策(案)】の『北部地域』の『全体の位置づけ』には「日吉台中央公園は交流拠点(小学校・コミセンは位置づけなし)」と表記されている。幼稚園や保育園に関して行政の法律の段階もあると思うが、空き教室等を使つての対応はいかがだろうか。近くに小さい子どもが利用できる施設が整備されれば、小さい子どもを持つ家庭が住みやすくなると思う。これはあくまでも提案で、公共施設というよりも子どもが減ることで学校が空くのであれば、その空いているスペースを活用することも検討のひとつではないか。

寒郡座長：

- ・いまのご意見について、事務局から何かあるか。

事務局：

- ・大変貴重なご意見をいただいた。様々な点について再度検討させていただければと思う。マスタープランを策定するにあたり、コンパクト+ネットワークが大きなテーマになっている。これから財源等が厳しくなるなかで、それぞれの拠点間を結ぶことが大事になり、ひとつの拠点で生活に必要なものがフルセットで揃うことが難しい面も出てくる。それによっては他地域との拠点等を結びながらそれぞれを補完しあつて活用していくことも必要だと考えている。その点を含め、いただいたご意見を参考にさせていただければと思う。

粟飯原委員：

- ・日吉台を横断する中央道路の両側には商業地域があり、そのなかに立派なビルが3～4棟あるが、このビルは当初から使われていない。まったく新しいまま30～40年経過している。なぜそのビルは使われないのか、不思議に思っていた。なかには飲食店がテナントとして入り使わずに退去したという例もあるが、おそらく日吉台地区はテナント料が高く、要は商売をしてもテナント料のために利益が出ず、出ていくのではないか。そういうものほどこかが、誰かが何かをしてコントロールしない限りは動かないと思う。当然のことながら地主がいるわけで、個人か企業なのかはわからないが、テナント料が上がるまで待とうという思惑があるかもしれない。そういうものを何らかの形で活性化する方法はないのか、という思いがある。

事務局：

- ・空き家・空き店舗の問題にあたると思う。地域で必要とされているものがあるなかで、うまく活用されていない店舗等もある。空き家・空き店舗は現在の問題になっていることもあり、市場に流通させられるようなものがシステムとしてあればと思っている。使われていないものについて、都市計画は集中することによって効率を図るという面があり、なるべくコンパクトに集中することによって施設等が維持されるように、人が集まるような形になっていければと思っている。商工的なものもあるが、この点についても検討していければと思う。

大道委員：

- ・課題は色々あるが、年齢階層別に分け文字で提案していただくことも検討していただきたい。

事務局：

- ・検討する。

寒郡座長：

- ・中部地域の地域別構想（素案）について説明をお願いしたい。
- ・【地域別構想（素案）について】中部地域 説明（5～6頁）

川島委員：

- ・中部地区でも西の酒々井寄りに居住している。以前の構想だと第一小学校区近辺について気付いた点をお話する。
- ・5頁【第1回ワークショップでの主な意見】の『強み』の「自然の豊かさ」で「水がキレイ」と表現されているが、どういう視点で「水がキレイ」なのか。

事務局：

- ・中部地域の第1回懇談会は出席者が16名で、班分けをしてワークショップを行った。その班分けをしたグループからこのような意見が出た。根木名川や高崎川に蜚が育っているという自然を見て「汚れている」というイメージを持っていないと思われ、「水がキレイ」との発言に至ったのではないかと。

川島委員：

- ・根木名川や高崎川でも最上流部分や生活排水が流入していない箇所については「水がキレイ」と言われても理解できるが、下流部においては水質が良くない。私の住む地域でも河川の水は透き通って見えるが、水質的にはまったく良くない。
- ・6頁素案の【住宅地・集落地】で「市街化区域内の住宅系用途地域については、ゆと

りをもった良好な居住環境の保全と充実を図る」とあるが、この点については理解できる。しかしながらこの周辺では小規模開発が多い。北部地域のような大規模開発は宅地開発指導要綱等でも良好な環境が維持される。小規模開発の規制は難しく、小規模開発が連坦すると将来的に防災面への障害が出ると思っている。そのなかでも特に、台風のような降雨量が多い際、小規模であると調整池等の設定義務がないため下流域に対する負荷がかかる。高崎川上流については、佐倉市内の JR 付近が整備中であり、酒々井町や富里市に入るまではかなり河川距離がある。そのなかで調整池や雨水対策は検討されるべきだと思っている。

- ・酒々井 I C 周辺の構想は重点施策候補に入っているが、関連する酒々井町は佐倉都市計画区域であり、連携を図る例は早期に進めたほうが良い。これについて富里市としてどれだけの面積・規模であるか検討されているのか。

事務局：

- ・酒々井 I C が開設されたあとの話となるが、地域活性化インターとして作られたということで表にはなかなか出しづらい話になるが、将来の市街化編入を視野に検討している。大体 20ha 以上は確保できるような設定ができており、千葉県にも一度話をさせていただいた経緯はある。

川島委員：

- ・【生活拠点（中沢地区）】の「市有地の活用」について、17～18 年ほど前に富里市が取得した約 15ha の土地だが、当初は廃棄物処理場の候補地に上がり、当時は地元説明会を開催している。そのなかで処理場と周辺の地域コミュニティ施設を設置するという話だったが、清掃工場が成田市との関係で止まり、その後の土地利用について明確なものは出されていない。この土地について構想等が記述されており、そういう面においては早期に土地利用計画の検討をすべきだと思う。途中の経緯があるにせよ、土地を取得してから約 20 年近くが経ち、荒地地になってしまっている。素案で拠点にするなどの表現をしていることから、早い段階で取り組んだほうが良い。
- ・【農地・緑地】において、中部地域に限らず、畑や田、水田など土地改良事業を行った耕作放棄地は増え続けている。富里市は産業のなかでも農業と言われており、そのなかで農地の集約化を補助事業等で行っている地域もある。この点をいまやっておかないと、高齢化問題や担い手がいないことが現状であるため、注視していただきたい。
- ・真ん中の図に「(仮称) 南部産業道路」と表記されている箇所がある。以前の構想では「(仮称) 北総道路」と表現されていたが、同じような路線だと思う。ただ道路については南部地域の重点施策候補に上げられており、中部地域としても路線の促進は非常にメリットがある。ひとつは酒々井 I C の供用開始後、富里市は第一小学校周辺まで両側幹線道路が整備され、その後はバイパスとしてインターまで接続する。供用開始後は朝・夕方・夜における大型車両の交通量がかなり上回っている。市役所を起点に 296 号、芝山から先の多古など、いわゆる通過交通量が増えている。芝山などから見

れば利便性は高まっていると思われるが、市役所周辺の中心的なところは通過交通により阻害されている状態だ。夕方は図書館からの交差箇所が日常茶飯事的に渋滞している。「(仮称) 南部産業道路」の促進については、極めて効果が大きいものであると思っている。

- ・【生活拠点 (中沢地区)】の「市有地の活用」について、17~18年ほど前に富里市が取得した約15haの土地だが、当初は廃棄物処理場の候補地に上がり、当時は地元説明会を開催している。そのなかで処理場と周辺の地域コミュニティ施設を設置するという話だったが、清掃工場が成田市との関係で止まり、その後の土地利用について明確なものは出されていない。この土地について構想等が記述されており、そういう面においては早期に土地利用計画の検討をすべきだと思う。途中の経緯があるにせよ、土地を取得してから約20年近くが経ち、荒地地になってしまっている。素案で拠点にするなどの表現をしていることから、早い段階で取り組んだほうが良い。
- ・【開発構想地区】の大和・根木名地区は「成田空港の機能強化に対する受け皿」という表現で明示されている。機能強化について「3/13に最終合意された」と新聞報道があったが、現状でも空港の発着が増え、将来的にも新滑走路は早くても10年先の供用になると伝えられている。【開発構想地区】は当然成田市との連携であるため表記できないと思うが、この点について重点施策候補という枠を設けているのであれば、【開発構想地区】も重点施策候補に位置づけて取り組んだほうが良い。言葉は悪いが、色々と検討しているときには乗り遅れる形になるかもしれない。空港機能を補填するような区域という位置付けのため、乗り遅れないように進めるべきだ。
- ・合併浄化槽を下水道の流域にするのは大変なことだ。市でも合併浄化槽の設置については補助により促進を図っているが、放流先がないようだ。完全にはないわけではなく、農村部においては家から100~200mで、U字溝を入れれば流せるという家が見受けられる。合併浄化槽の促進は水質浄化にも相当メリットがあるため、流せる放流先についても合わせて検討していただければ促進率は伸びると思う。

事務局：

- ・「マスタープランに記述できる」「できない」の議論もあるが、川島委員の発言は決してマイナスにならない意見だ。取り入れられるものはなるべく取り入れるような形にしたい。

川島委員：

- ・合併浄化槽の流末等について、マスタープランに記述してほしいということではない。行政にはその点を含めて進めてほしいという考えだ。

寒郡座長：

- ・空港の機能強化により発着率が30万回から50万回になる可能性があり、それに伴う直接の雇用が3万人増える見込みのうえ、様々な経済波及効果を考えると人口が増え

る地域ということで県は人口スキームを考えていると思うが、少し違うという部分を考えていただいた前提での話になる。

北部地域と中部地域の、特に富里 I C 周辺から日吉台に抜ける部分については、道路を整備すると思われるのである程度動線はうまくできると思うが、面的な部分について一体性を持たせるためには、面的な整備を考えるべきではないか。民間が行うにしろ役所が行うにしろ、ある程度のハードルとして市の上位計画を持っておいたほうが良いのではないか。

- ・空港からのアクセスを考えた場合、酒々井 I C はキーとなる。空港南側の「(仮称) 南部産業道路」という構想も確かにあるが、現状では空港からのアクセスという部分について、特に物流関係の方々からは「酒々井 I C を使いたい」という意見があるようだ。その部分をいかにうまく開発していただきたい。「誘導」という部分をうまく上位計画で持たれてはどうか。
- ・全体的にみると【開発構想地区】で根木名小学校周辺を位置づけることは戦略的に良いと思うが、私としては物流等において、民間の土地においても土地利用できる可能性は非常に高いと思っている。この部分について、もう少しうまく網をかけることはできないかと感じている。
- ・商工観光課ではアクションプランを策定予定だが、その拠点となるのはホテル等になる。そこから派生する地域の部分に岩崎邸等を含めたなかで、観光として人が集ってもらえる可能性はまだあると思っている。その部分についても上位計画として位置づけても良いのではないか。また民間にどうにかやってもらえる形があると良い。
- ・南部地域地域の地域別構想（素案）について説明をお願いします。
- ・【地域別構想（素案）について】南部地域 説明（7～8 頁）

宮川委員：

- ・北部地域は水道・下水道が完備されているが、南部は井戸水だ。南部で実際にあったことだが、電気代を払っていないために生活困窮者が井戸水を止められてしまった。水が使えずライフラインの一番大きな部分を止められたことで「おばあさんが動けなくなった」と近所から連絡があり民生委員が訪問し、地域包括支援センターへの報告により病院に收容されたようだ。空かない一部屋があったが独居ではなかったため、民生委員はその部屋を訪問していなかった。一緒に息子が住んでいたが引きこもっていた状態で、おばあさんがいたときも絶対に出て来ず、車があるから部屋にいると近所の方も認識していた。しばらくして包括センターの方が訪問してみると様子が変わり、部屋のなかで亡くなっていたということがあった。水道が完備されていないため、電気を止められると困窮者にとってはどうしようもなくなる。数年前にも私の近所に住む知的障害者がたびたび電気代を滞納したため水が止まり、近所の農家へ水を汲みに来ていたようだ。そういう関係であればまだ何とかなるが、電気を止めるときには民

生委員などに連絡がほしい。公共の水道水が来ていればよいが、井戸水が止まるということは死に繋がる。東京電力さんをお願いしたことがあるが、そういうことがまだ現実に出てきてしまったことはとても残念だ。地域包括センターが設置され対応してくれていることでかなり良くなっているが、その点をもう一度考え直していただきたい。

- ・中部地域で「水がキレイ」という意見があるのは水道水のカルキ臭がなく、小学校や学童施設には水道水が来ていて、水がキレイな状態だ。私の居住地は井戸水でかなり汚染されているため、浄水器を付け必ず沸かした状態の水でなければ使わないという工夫はしているが、できるならば水道水にしてほしいという気持ちはある。井戸水に関してはつい最近も起こったため、民生委員としては考えていただきたいことだ。
- ・南部地域は農村地域であるため住民の絆が強い。小学校の卒業式に出席して子どもの頑張り、地域の頑張りを感じる。高齢化は進むが後継者の嫁はなかなか来てもらえない状況のため、若者や後継者が交流できるような施策についても考えていただきたい。日本の自給面を考えると若者や後継者に農業を続けてほしいし、農家に頑張ってもらわないといけないと思っている。地域の野菜を買うようにしているが、子どもたちにも「農家がダメになったら日本はダメになる」と言っている。自給率を上げていくためにも、そういった施策をお願いしたい。
- ・市道に垣根や立ち木がかなり出ている。狭い道路で木が出ていると、大きな車とのすれ違いの際は本当に危険だ。早急に対応をお願いしたい。
- ・徐々に学童クラブやこども園が増え、子どもたちや子育て中の親も支援センターへ行っているようだ。民生委員で「子育て支援」や「いきいきサロン」を行っているが、子育て支援に来るお子さんが減った。減ったということは支援センターへ行っている、または若い母親が働き始めてこども園を利用しているということだ。前は子どもたちがたくさん来ていたが、この1年でとても減った。減ったということは良いことと捉えており、民生委員は子育てにそれほど力を入れず、高齢者へ注力すれば良いと思っているところだ。

寒郡座長：

- ・関委員よりご意見を伺いたい。

関委員：

- ・経済的な視点から意見させていただく。

成田空港周辺エリアの将来的なポテンシャルを考えると、約6年後に圏央道が全通し、10年前後で成田空港の第3滑走路を含めた機能強化が実現する。それにより人の流れや物流が増えるということは、新たな企業誘致を含めて産業振興のチャンスであることがひとつ上げられる。寒郡座長からも話があったが、成田空港で働く人もどんどん増えていく。先日エヌエーから調査発表があったが、成田空港内で働く方は2014年から2017年にかけて約3000人増えたとのことだ。単純計算で年間1000人増えているこ

とになる。これがどんどん加速していくわけで、そういう人たちをどのようにして定住人口として取り込んでいくか、この視点も重要だと思う。

- ・成田空港の機能強化を取り込むということは富里市にとって今後10～20年の最大の機会だと感じているが、SWOT分析上でそういう視点が【機会】の部分に記述されていないことが残念だ。「乗り遅れたら困る」という話も出ていたが、例えば成田市では京成本線の新駅構想とも絡めて、成田空港内で働く人の人口をいかに受け入れていくかという基礎調査を来年度に行うようだ。地域間競争であるため、打ち勝つにはどういう風に取り込んでいくか戦略や考え方が必要であり、そういうなかでは計画づくりの際に明確に書き込むことが重要だ。中部地域では【開発構想地区】という考え方が示されているが、中部地域だけではなく、例えば3地域に色があるためそれぞれどう活用して成田空港の機能強化を取り込んでいくのか。人口であれば北部、第三工業団地の検討という話もあるが産業振興であれば中部地域、交流人口であればグリーンツーリズムの話が出ている南部地域と、そういった考え方や戦略を書き込んでほしいと感じた。

酒井委員：

- ・3地域に【地域包括ケアシステム】について記述がある。我々が子どものときから比べると医療体制は大きく変わり、病院と診療所が連携し通常の小さなケアは診療所、そこで対応できないようなものについては大病院へ、という仕組みのなかで地域包括ケアシステムはなるべく在宅、時々病院という形を取り、できるだけ在宅で元気に過ごすということになっている。これからこのシステムがどんどん進むなかで、現在高齢者の運転問題がある。さらに寿命が延びていくことになると、免許証を返還した車を運転できないが歩ける高齢者や独居、老夫婦だと、どうしても公共交通機関に頼らざるを得ない。富里市は鉄道がないためバス網の充実、民間・デマンドと色々とあると思うが、ぜひとも最重要課題として考えていただきたい。高齢者がいま居住しているところで暮らそうと思っても、「不便だから駅近くに行こう」となりかねない。特に南部・中部を中心にお願いできればと思う。

河合委員：

- ・各地区の地域別構想でバス交通について「既存バス路線の維持・拡充、高齢化の進展に合わせた運行形態・路線の見直しに努める」と書かれている。バスは車体が大きいので、道が狭いと行ける範囲が狭まってしまうこともある。そのなかで成田七栄線の拡張整備を重点施策候補に上げている。バス路線を引く、ルート変更を検討するなかで「道路が狭い」「対向車が来たらすれ違いできない」「枝が生い茂っていてバス通行に支障が出る」といったことが問題になる。この点の整備に力を入れていただくことが重要だと思う。他市町でもコミュニティバスとして運行しているが、木が生い茂っているせいで先に進めず台風や雪のたびに運休になるケースがある。拡幅は簡単にできることではないことは重々承知ではあるが、バスが通れる環境整備は大切だと思っ

ている。

- ・私は富里市在住ではないが、環境は南部地域寄りのため痛いほど良くわかる。バス会社で働いていながら自宅前はバスがまったく通っておらず、私が小学校に入る前にバス路線が廃止になった。私は学生のときにゼミなどで「自然があるから良いで不便を預けられたら困ります」という持論を話し、卒論でもそういうことを書いていた。「自然が良い」「環境が良い」で、合併浄化槽や下水道、道路の問題がそのまま片づけられる社会はやめようと、学生時代から言っていた。駅から遠い地域に居住する方が少しでも便利になるような構想があれば良いと感じている。

田所委員：

- ・富里市をはじめとした周辺の9市町で、成田空港のさらなる機能強化として滑走路の増設や発着回数の増加、時間の延長等について最終的な結論が得られ、確認書を交わさせていただいた。まだまだこれから施策等をしっかりと行っていかなければならず、地域住民と環境を守り国際競争力を高めていくといったなかで、当社としては経済という面で参加している。空港の運営が経済的なプラスの効果を生むように、千葉県と空港周辺の地域づくりに関する基本プランについて、さらなる機能強化に伴う富里市からの意見を吸い上げ、総合的なプランを作成しているところだ。このプランに基づいて今後は実施計画が策定されていく。
- ・空港会社としてできることはそれほど多くはないかもしれないが、プラス面を富里市のマスタープランに落とし込み表現していくことができれば、我々としても心強い。また空港づくりは地域づくりという理念もある。まだ具体的に言える段階ではないが、その点も進めていければと思う。機能強化は非常に先の長い話であり、10年という話も出たが、本当に10年なのかというとなかなか難しい面もあるかもしれない。成田空港は順調にきており、従業員数の紹介があったが取り扱い数量も年々増え続けている。そのなかで従業員が就業する雇用の場も増え、産業や経済活動も少しずつだが膨らんでいる状況にある。富里市のマスタープラン等に現状でも貢献できることがあるのではないかと考えており、ご指導・ご意見いただき、空港会社にできることがあればお声がけいただきたい。

鎌田委員：

- ・地域別構想のため住民意見が中心になるのは理解できる。大学で学生たちにSWOT分析をさせるが、グループ間の意見を住民意見に代えて演習している。それに加えて都市計画基本調査や位置特性、周辺開発動向、成田空港の基本プラン、地区別の将来人口推計などのデータをしっかりと踏まえ、専門的視点からのSWOT分析を行う。その分析と学生たちの住民間の合意をすり合わせないと、SWOT分析は完結しないと思っている。作業的には大変かもしれないが、少しでもあったほうが良い。これから人口が減っていくなかで「合意形成の集合体」というマスタープランから、戦略的な側面を帯びていかないと本当のマスタープランの役割は果たせない。特に富里市は

財政的にも立地的にも大変厳しく、成田空港があると言っても厳しい状況には変わらない。データがきちんと揃っているのだから、もう片面の評価をしていかないともったいない。これから生き残っていくのに、今後10～20年使っていくマスタープランとなる。現時点でうるさく言うのかと思うかもしれないが、地域別だからこそデータから見えてくる部分はたくさんあるため、その作業を行ってはどうか。

立木委員：

- ・地域別の各委員の意見、市として地域別構想に対する意見、また鎌田委員より土地利用現況や道路整備状況など、5年に一度、法的に都市計画基礎調査を行うなかで、それをどう活用していくかという意見だった。私としてはこのマスタープランは、空港が強化・拡張される時点でこれから先を見据えて策定しているため、とても良い時期に作られていると思っている。難しさとしては、富里市のなかで空港がどう拡張され、就業人口や業務の増加をうまく戦略的に取り入れられるかという点だ。作り方としてこの点の落とし込みはある。
- ・富里市は市域全体として富里で、南部地域は自然が非常に良くグリーンツーリズムが考えられている。各地域の交流拠点はあがるが、北部地域は住宅環境が良い地区で交通の便も成田圏として活かされている。中部地域には市役所、道路網が集まり酒々井ICのインパクトがある。農村地域は農村地域としてある現在の環境を大事にして維持していかないと、せっかくの景観や資源が生かされない。荒れてしまったら富里市としての魅力が下がり、他市町へ住居を求める人が出てくるかもしれない。いまある富里市を、特に南部地域の自然をどう維持できるかがポイントにあると思う。
- ・全体として、【地域別懇談会のまとめ】の項目立てや記述は良い。都市構想を支える拠点について、南部地域は調整区域が多いなかで生活の中心となるべき部分はあるためその部分を抑えること、交通問題として道路の維持・整備のあり方が上げられるが、富里市としてこれまでの市域で保全すべきものを継続していくことが大事になる。
- ・富里市に限ったことではないが、高齢化問題も上げられる。人口減少の傾向は多少見られるが、むしろ高齢化のほうが問題になるのではないか。それを支えるためには公共交通が大事で、運転できない方や子どもと同居していない方の生活のために公共交通を維持していかなければいけない。これは少し発展的な意見かもしれないが、スーパー・病院・学校・自宅を結んでいるだけの公共交通だと利用できる人に限りがあり、バスの運営・経営的にも非常に難しい状況となる。例えばグリーンツーリズムや中部地域だと岩崎別邸など、他市町村から富里市へ来てバスを使って市域の魅力ある場所を観光する。あるいは高齢者が家に閉じこもるのではなく、魅力のある施設等があれば外出する気持ちになり、出掛けるのに公共交通を利用する。ただ利便のある部分だけを抑えるのではなく、出掛けてみたくなるような魅力ある拠点を回るバスルートを意識しながら、公共交通の維持を検討することが富里市にとっては非常に大事になる。
- ・成田空港の機能拡張によって市域へ波及効果を受けるなかでどうしたいか、要望は上げられている。それが実現化のためのプランに移行していくと思うが、そのなかで道

路は一番大事な部分になり、考え方としてどのような整備とするかが出てくる。このなかで必要な路線は市域としてしっかりと抑え、それを市の構想路線として位置づけておくことは、これから県と話を進めていくうえで大事な部分になる。構想路線の抑えは将来、どうしても市域を支えていくうえで必要な部分だ。

- ・この結果で最終的な考え方を示すと思う。将来の都市像がわかるような形で作成するものが都市計画マスタープランだが、構想を作るなかで個別の密着した意見が出されているが拾いきれないとすれば、市として各地域で開いた懇談会で意見を聞いているため、どのような意見があったかを整理し、他の部局へ意見を落とすしていく。市域で様々な意見をいただいております、マスタープランに活かせる意見、地域に密着した意見をどう活かしていくか、この機会に整理しておいたほうが良い。
- ・いただいた貴重な意見を入れていくと、これで大体まとまっている。これから成田空港の機能強化に向けて、戦略的に工業団地、開発構想地区を定めているが、土地利用的に適地として位置づけているのか。将来的に見込みのある地区、実現性のある地区かどうか検証したうえで、地区のあり方を出したほうが良いと思う。
- ・今年度はここまでが一区切りだが、これから先地域別懇談会を経て全体をまとめていくと思う。県の立場からすると、空港周辺に関して富里市だけに肩入れはしにくいですが、今回は委員として参加している。富里市の将来構想を考えるといまが一番大事な時期であり、市として戦略的に取り組むべき地区を抑えまとめるべきだ。都市計画でカバーすべき範囲は広いが、細かい点までは拾いきれない範囲がある。細かい部分は市として受け止め、全体的に富里市が発展するような恰好で進めていければ良い。

## 5 その他

- ・事務局より、今年度の作業内容、次回懇談会の開催予定について報告

## 6 閉会